

2016年5月31日

久留米大学医学部医学教育研究センター

<https://csme.kurume-u.ac.jp/>

神代龍吉、安達洋祐、柏木孝仁、北川周子

1. 今年度の活動目標

5月24日(火)の定例センター会議で、今年度の重点活動目標を定めた。去年の項目で達成度が低かったもの、未着手のものを取り上げた。出席確認のICT化検討、参加型臨床実習の工夫、実習における態度・プロフェッショナルリズム教育、卒業生の調査(専門医取得助教等)、新専門医制度の情報収集、シミュレーション教育の充実、受講学生のノート取りの訓練、e-learning、e-portfolioの普及、予習教材のサーバへのアップ促進、TBL授業の普及、本学Student Lifeにある学生の義務履行を促して学修に責任を持つ、授業評価、国試自己採点報告等への理解を求める、勉学に関する学生からの相談窓口の拡充などを行う。

2. 第48回医学教育学会大会の演題採否

7月29日(金)、30日(土)、大阪医科大学にて開催の上記大会に本学から応募していた4演題はすべて採択された。佐柳和博(5年生):「席次と学生生活」(学生セッション)、柏木孝仁:「共用試験CBTの成績から学生個人の医師国家試験の可否を予測できるか?」、守屋普久子:「医学科5年生の学生を対象とした男女共同参画に関するグループ講義の試み」、神代龍吉:「共用試験OSCE10年を考える～昨日・今日・明日～」(シンポジウム)。また3名の学生が31日(日)の学生シムリンピック(診察手技のコンテスト)を見学予定。

3. 第24回久留米大学医学教育ワークショップ

参加申し込みフォームを各講座代表メールに送信した。締め切りは8月1日(月)。第1日目のワークでは4人一組になり、協同学習や効果的なPBL tutorialを実体験していただく。各講座から最低一人は参加してほしい。参加者の上限は80名を予定している。

4. 国試自己採点報告

卒業生に依頼した国試自己採点報告は50人に満たない数しか得られず、有意な統計解析ができなかった。学生諸子には、本調査の意義を理解してもらい来年も協力を願うよう、再度依頼する。

5. 医学教育研究センターの小改造

来訪者接客や大学院講義が、人の出入りに煩わせられることなく実施できるように、センターの一部をパーティションでコンパートメント化した。

6. 模擬患者（SP）養成

5月14日（土）に「平成28年度第1回SP養成セミナー」を開催した。今年の活動予定の確認のほか、SPさんのアイデンティティ確立のために本学医学部SPであることを示すIDカードを配布すること、SPさんの勉強のために医学教育学会等で発表されたSP関連演題抄録を当センターで集めて配付すること、SP募集のために大学や市民の演劇団体への打診をしてみるなど、などが決まった。さらに9月の医学教育ワークショップ講演者の山口育子氏はSP養成にも関わっているCOML(Consumer Organization for Medicine & Law、NPO ささえあい医療人権センター)の理事長であり、本学SPの聴講も可能であることを周知することになった。なおCOMLは文部科学省のホームページにも紹介されている。

http://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/npo/npo-vol3/1316661.htm

6. 学外活動

- 1) 医学教育学会理事会の下部委員会に、神代が「学習者評価委員会」にも属することになった（他のひとつは「卒前教育委員会」）。
- 2) 5月21日（土）に岐阜大学MEDC主催の「第60回医学教育セミナーとワークショップ in 東京医大」に安達が、梶原庶務課長、整形外科山田医師とともに出席した。3名とも「WS6 医学教育分野別認証評価における自己評価の書き方を学ぶ」コースを選択した。18大学から計24名の参加であった。

以上